岡崎市制100周年記念事業
**岡崎まちものがたり**

# 六ッ美の洪水

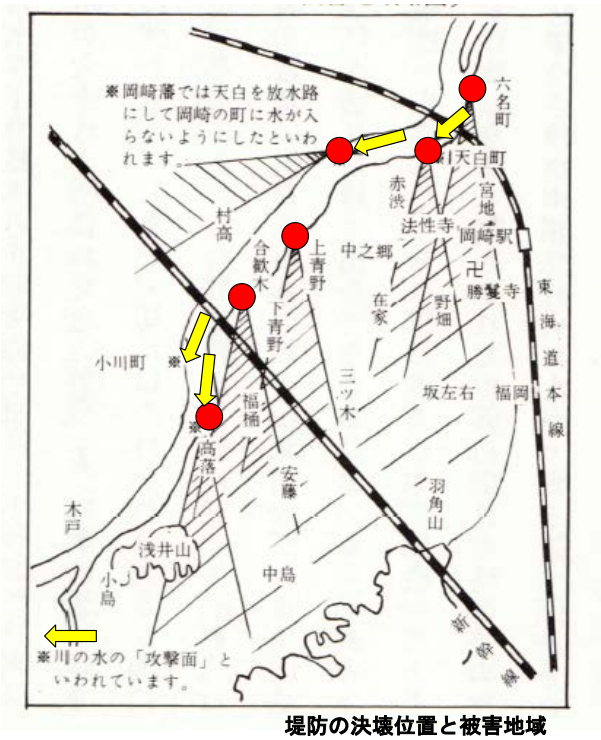
明治以前では、矢作川の堤防の高さは1.5mくらいしかなく、時々洪水の被害を受けた。雨が続けばそのたびに、山へ避難し、水が引けばまた村に帰ることを繰り返していた。

1646（正保3）年の上青野切れでは、矢作川堤防が40～50m切れたといわれている。流れた家は56軒、死者は14～15名ということである。

1825年（文政8）年の上青野切れでは、矢作川堤防が約180mにわたり決壊した。同時に村高（桜井）、浅井（西尾）でも決壊した。堤防が決壊した後に、面積約1町歩余りの池ができ、40年間そのままになっていたが、1866（慶応2）年から2年掛かりで埋め立てが行われた。

1850（嘉永3年）と1852（嘉永5）年の天白切れでは矢作川堤防が約200m決壊したといわれている。1852（嘉永5）年の天白切れでは高落地内の堤防も決壊し、1か月以上水が引かなかったといわれている。

このように、幾度にもわたり悲惨な歴史を繰り返したが、洪水からこの地域を守れるようになってきたのは矢作新川を開いてからであった。「天白切れ」が多いのは、もともと矢作川の河道に原因があったようである。



堤防の決壊位置と被害地域

| 洪水名 | 年代（年） |
|---|---|
| 慶長の大洪水 | 1597（慶長9） |
| 元和の大洪水 | 1615（元和1） |
| 上青野切れ | 1646（正保3） |
| 天白切れ | 1705（宝永2） |
| 洪水 | 1765（明和2） |
| 洪水 | 1779（安永8） |
| 合歓木切れ | 1787（天明7） |
| 洪水 | 1795（寛政5） |
| 上青野切れ | 1825（文政8） |
| 天白切れ | 1850（嘉永3） |
| 天白切れ | 1852（嘉永5） |
| 三島切れ | 1882（明治15） |

本項は以下の資料を引用している。


**[六ッ美風土記]**
編者　岡崎市立六ッ美中部小学校父母教師会
監修　太田　満也
発行　岡崎市立六ッ美中部小学校父母教師会
発行日　1975（昭和 50）年 3 月 24 日
印刷所　あいち印刷株式会社